

和光市における市民参加の評価

1. 前回会議での意見

- ・オンラインツールを充実させる必要性。
- ・職員向けマニュアルに説明の不足があるのではないか。

→既存の手法として広く周知された方法に加えて、現代に合わせたオンラインツールを積極的に活用できるように、様々なツールの活用方法があることを周知することが必要。使い方については、初めて市民参加に取り組む職員でも簡単に理解できるようなものを用意する必要がある。

- ・20年前に比べれば、1個以上市民参加を行うことができるようになっている。
- ・市民参加がある程度浸透した現在では、1個以上では十分ではないと感じられる点もある。
- ・現状は、条例上市民参加の対象となる事業が上がってきているが、検討対象とする範囲はそれでいいのか。
- ・市民参加をするのに、事業そのものを理解するための情報が少なすぎる。

→条例施行当初に比べて、市民参加を行うことはできるようになっているが、より効果的に市民参加を行えていないものも散見される。形式的になっている場合も多いため、より該当する対象者に適切に届くように効果的に市民参加を行う必要性がある。

- ・子どもの市民参加を増やしてもよいのではないか。

→子どもを対象としたワークショップなどを行うなど、試験的に取り組んでいく検討。

例) 40周年、45周年記念事業 子ども議会

2. 事務局から提示した問題点と対応方法

	条例 改正	市民参加 の手引き の改定	マニユア ルの改定	その他 (運用等)	
SNS を活用した新しい手法の 取扱い			○	○	
説明会・意見交換会で出た意 見等の取扱い		○	○	○	
意見の取り入れ可能な時期で の適切な市民参加の運用		○	○	○	
好事例の紹介			○	○	好事例紹介を研修などで 行う
使われていない市民参加の 扱い（住民投票、公聴会等）				○	存在することで必要な時 に活用可能、現状維持
共同での市民参加 (分野の近い事業)			○	○	